

令和4年6月一般質問での主な意見と市の考え(案)

項目	令和4年6月議会 一般質問での主な意見など	意見に対する市の考え
	枚方市駅周辺の特徴を明確にするべき	<ul style="list-style-type: none"> ・別紙1「④⑤街区の市有地を有効活用したまちづくりの考え方(案)」の「④⑤街区でめざすまちの姿(案)」に、市駅から⑤街区の新庁舎・天野川方面への〈みどりの景観軸の形成〉を記載しました。 ・「④⑤街区の土地利用 イメージ図」には、上記に加え、公園・広場のゾーニングなどの特色ある空間を表現しました。
	回遊性を向上させるランドマークが民間事業者により設置されるよう要望	<ul style="list-style-type: none"> ・別紙1「④⑤街区の市有地を有効活用したまちづくりの考え方(案)」の「④⑤街区でめざすまちの姿(案)」に、〈みどりの大空間を活かしたイベントの開催や魅力的な店舗の設置など、公民連携による歩きたくなる仕掛けづくり〉を記載しました。 ・「④⑤街区の土地利用 イメージ図」には、上記に加え、〈店舗の設置やイベントの開催など公民連携により、歩きたくなる空間を形成〉を記載しました。 ・参考資料2「④⑤街区でめざすまちの姿(案)」の内容に、〈みどりの大空間を活かしたイベントの開催や公園・広場・ペDESTリアンデッキとシームレスな店舗などによる公民連携した歩きたくなる仕掛けづくり〉を記載しました。
まちづくり	④⑤街区に市民が求めることを考えるべき	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のワークショップなどを踏まえ、別紙1「④⑤街区の市有地を有効活用したまちづくりの考え方(案)」の「④⑤街区でめざすまちの姿(案)」に〈集い〉〈つながり〉〈彩られた〉などを掲げています。 ・その実現に向けて、④⑤街区のまちづくりの具体化にあたり、周辺商業施設と連動できるコンテンツの誘導などについて、検討する考えです。
	民間ノウハウを最大限に活用し、魅力溢れるまちづくりを早期に実現するよう強く要望	<ul style="list-style-type: none"> ・別紙1「④⑤街区の市有地を有効活用したまちづくりの考え方(案)」や新庁舎の位置など、市の土地利用の方向性を示すことで、民間の参画意欲をさらに促し、民間ノウハウを最大活用できる環境を整え、早期のまちづくりの実現をめざす考えです。
	商業施設について、樟葉も含めた既存施設や新たに③街区にも大きな施設ができるが、そこまでの商業ニーズはあるのか。既存商業施設などの地域資源を含めてそれぞれを有機的に連動させる必要があるが、そういった戦略性は全く見えない。	<ul style="list-style-type: none"> ・④⑤街区のまちづくりの具体化にあたり、③街区の商業施設などにどのような機能が入るのかなどを注視しながら、③街区を含む周辺商業施設と連動できるコンテンツの誘導などについて、検討する考えです。
	まずは、市がこの④⑤街区でどのようなまちをめざし、どのようにまちづくりを進めていくのかについて、しっかり示すよう意見する。	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、めざすまちの姿として、別紙1「④⑤街区の市有地を有効活用したまちづくりの考え方(案)」を作成しました。
	④⑤街区のトータルコーディネートや、④⑤街区の土地区画整理事業の実現性を高めていく民間パートナーを早期に示すべき	<ul style="list-style-type: none"> ・別紙1「④⑤街区の市有地を有効活用したまちづくりの考え方(案)」に〈ノウハウを有する事業者との連携強化〉を記載しました。 ・参考資料2「④⑤街区でめざすまちの姿(案)」の内容に〈UR都市機構に土地区画整理事業の施行者としての参画及びトータルコーディネートの協力を求める〉を記載しました。
	市民参画のまちづくりを要望	<ul style="list-style-type: none"> ・別紙1「④⑤街区の市有地を有効活用したまちづくりの考え方(案)」の「④⑤街区の土地利用イメージ図」の通り、公園・広場やその周辺の施設が連携して、市民活動やエリアマネジメントが促進されるまちづくりをめざします。

項目	令和4年6月議会 一般質問での主な意見など	意見に対する市の考え
新庁舎	新庁舎の位置について議会が判断するために、必要となる資料と丁寧な説明を求める。	・これまでの議会の意見などを踏まえ、別紙1「④⑤街区の市有地を有効活用したまちづくりの考え方(案)」を作成しました。
	④街区での新庁舎も含めてサウンディング型市場調査をするべきだった。	・サウンディング型市場調査は、「枚方市駅周辺再整備基本計画」や市民意見聴取により作成した「④⑤街区のまちづくりの考え方(骨子案)」に基づき行ったものです。
	新庁舎整備基本計画について、時代に即した計画となるよう検討を進めるべき DXの取り組みなどを踏まえ、新庁舎のコンセプトや規模をある程度示すべき	・今後の新庁舎の検討の方向性として、別紙2「新庁舎基本計画策定の考え方(案)」を作成しました。引き続き、議会などのご意見を踏まえ検討していく考えです。
財政	市駅周辺再整備全体や資材高騰などを踏まえた財政シミュレーション及び財源を示すこと	・②、④⑤街区の資材高騰などをも含めた別紙4「枚方市駅周辺再整備事業に係る財政シミュレーション」を作成しました。
	財政上の見通しもないまま、市民を置き去りにして、前のめりに事業を進めることがないことを要望	・②、④⑤街区の資材高騰などをも含めた別紙4「枚方市駅周辺再整備事業に係る財政シミュレーション」を作成しました。 ・本市の財政状況などを踏まえて、適時、議会への報告や市民への情報発信を行いながら段階的に進める考えです。
	長期財政の見通しが適正であるかの検証として、客観性のある外部有識者の視点による評価を取り入れるべき	・本市の財政状況及び長期財政の見通しが適正であるかの客観的な観点からの検証については、大阪府市町村局及び専門的知識を有する外部有識者からの検証・評価を受けました。
アリーナ	アリーナ施設の有無も議論するのであれば、それによるまちづくりの違いについても示すべき	・サウンディング型市場調査において、より魅力的なまちづくりへの提案の一つとしてアリーナの提案があり、現在、アリーナ施設の効果や財源等について、検討・整理を行っているところです。今後、アリーナ施設の必要性や実現性、また、庁舎機能をさらに高める施設などについて検討し、適時議会等への報告などを行う考えです。
	整備場所、規模、性格、内容、事業の財源確保、施設経営の在り方、本市の財政負担・リスク負担など検討すべき課題が山積。現時点では、実現可能性も「不明確」である。	
	サウンディング型市場調査で、アリーナ施設の民間設置が無理と言われたのなら、公共施設としても無理だと言うべき	
	新たなアリーナ施設の建設検討については、様々な面で市民一人ひとりを笑顔にすることに結び付けられるのではないかと考える。今後、丁寧に積み上げてほしいと要望	
	アリーナ施設の整備は、より良い魅力的なまちづくりとなると考えるが、持続可能な事業スキームや財源などの必要な検討が足りていないので、引き続き、議会へ丁寧な説明を行うべき	

項目	令和4年6月議会 一般質問での主な意見など	意見に対する市の考え
タワーマンション	<p>高層マンションの維持管理問題や50年先の建て替え問題などの課題がある。</p> <p>タワーマンションは市民から「NO」と言われたと理解している。</p>	<p>・市駅周辺での居住機能については、「コンパクトシティの形成促進」「駅周辺の日常的な賑わいの創出」「魅力的な住居施設の設置による定住促進」「事業性確保及び魅力（価値）の向上」などから必要と考えています。</p> <p>・今後、④⑤街区の具体化を進める中で、ニーズや周辺への影響なども踏まえ、必要な規模などを検討する考えです。</p>
災害対策	<p>枚方消防署や枚方警察署についても、老朽化や狭隘化に伴う建て替えが市民の安全を守るために極めて重要な政策課題であるにも関わらず、まったくおざなりにされている。</p> <p>災害に「備える」ためにも、老朽化し、廃止された市民会館大ホール棟を解体・撤去して、広い空間を確保することが必要</p>	<p>・枚方消防署の建替えに関しては、消防組合の訓練施設機能を拡充していく意向により、⑤街区では想定する規模の整備が困難であることから、⑤街区以外の場所を含めた機能移転等について検討しているところです。あわせて、⑤街区への救急ステーションの配置についても検討しています。</p> <p>・⑤街区を安全・安心の拠点としていくために、大規模災害時でも対応できる耐震性や安全性に優れ、エネルギーの安定供給等により行政機能が確保できる庁舎整備をめざしていきます。</p> <p>・また、大規模災害時には、④⑤街区の公園・広場等において、災害対応ができる空間を確保していく考えです。</p>
その他	<p>中学校区ごとの市民説明会を開催するべき</p> <p>南口駅前広場の改良の際には、バスの運転手を含めて公共交通事業者の意見をしっかりと聞くよう要望</p> <p>南口駅前広場の改良の際には、喫煙所の設置について駅からより近い場所での設置に向けて取り組むよう要望</p> <p>枚方市駅南口駅前ロータリーへの喫煙所の設置は反対</p> <p>国道1号沿いの長尾峠付近に設置されている交通事故犠牲者の慰霊碑を多くの市民が利用する④街区の公園内に移設することで、交通安全について、より関心を高めていくことができる。</p> <p>能楽堂についてもまちの魅力を高める重要な施設であるとする。</p>	<p>・広報ひらかたやホームページ、SNSなどの様々なツールにより、積極的に情報発信を行う考えです。</p> <p>・「枚方市駅周辺再整備基本計画」の改訂にあわせて、市民説明会を実施する考えです。</p> <p>・南口駅前広場については、再整備基本計画に示す駅前広場とニッペパーク岡東中央の連続した魅力ある空間形成や②街区の地権者の生活再建なども踏まえ、事業の具体化を図る中で、現場で身近に接している公共交通事業者などとの協議を行う考えです。</p> <p>・まちづくりの検討の中で、南口駅前広場における喫煙所については、関係部署などと連携しながら、検討を進めて行く考えです。</p> <p>・関係機関などと連携しながら、調査・検討します。</p> <p>・別紙1「④⑤街区の市有地を有効活用したまちづくりの考え方（案）」の「④⑤街区でめざまちの姿（案）」に〈文化芸能〉などを記載しました。</p> <p>・④⑤街区のまちづくりの具体化にあたり、周辺商業施設と連動できるコンテンツの誘導などについて、検討する考えです。</p>

〈④⑤街区でめざすまちの姿（案）の内容〉

1. 全国に誇れる魅力あるまちづくり

1-1. ウォーカブル機能の向上

- ④街区のニッペパーク岡東中央や広場を⑤街区方面に拡充して賑わいと憩い・安らぎの空間(公園・広場機能)を整備し、ウォーカブル機能の中心として、シンボリックな「みどりの大空間」を確保することにより、まちの魅力を高める
- 公園・広場機能は、新たな道路の整備と整合を図りながら、②街区の市駅(南口)駅前広場と連携した「賑わい広場」や「芝生広場」、「憩いと安らぎの広場」を整備
 - ・賑わい広場 : 市民発表会などのイベントが開催できる屋根付きステージと広場、ペDESTリアンの大階段が一体となった賑わいの空間
 - ・芝生広場 : 広場と店舗(新たな道路沿いの低層沿道サービス施設)が一体となって、歩いて楽しい・歩きたくなる空間や子どもが自由に遊べる空間
 - ・憩いと安らぎの広場 : ベンチなどの休憩施設のある、みどり豊かなゆとりを感じられる空間
- 自然を身近に感じられる歩道やペDESTリアンデッキを整備し、歩行者の回遊性を高めるとともに、周辺(淀川や天野川、川原町、宮之阪方面など)との接続を強化
- みどりの大空間を活かしたイベントの開催や公園・広場・ペDESTリアンデッキとシームレスな店舗などによる公民連携した歩きたくなる仕掛けづくり

1-2. 多様な交流の促進

- 民間のノウハウを活用した本市の魅力を高める多様な機能の集積と隣接する「みどりの大空間」などの一体的な利活用を通じて、多くの人々が集い、多様な交流が促進されることにより、イノベーション(新たな価値)が創出されるとともに、市民が、いつまでも健康で自分らしく生きがいを持って暮らすことができるまちをめざす
- 想定するコンテンツとしては次のとおりで、「職・学・住・楽」近接の多様なライフスタイルの実現と周辺地域への波及の促進をめざす
《④街区》

民間ノウハウを活用し、以下の施設を複合施設として誘導

・「みどりの大空間」と連携した商業・業務施設

(例えば、商業:カフェ・レストラン・フィットネス、業務:インキュベーション・シェアオフィスなど)

- ・子育て支援施設や教育、医療などの利便性と快適性の向上に繋がる施設
- ・体験型の文化芸術や公園・広場と連携した健康増進(フィットネス等)などの市民交流や賑わいを促進する施設
- ・多様な働き方が可能なシェアオフィスやインキュベーション施設
- ・様々な住居ニーズに対応した集合住宅

《⑤街区》

・新庁舎の整備とあわせ、回遊性の向上や防災機能の強化など、まちの魅力をさらに高める施設の実現性について検討
(例えば、多目的アリーナなどの広域集客施設)

- ④⑤街区や周辺地域に多くの人や事業者を集めることで、持続的にまちを育むエリアマネジメントの促進をめざす

2. 安全・安心で快適な都市機能の整備

2-1. 安全・安心な歩行者空間の確保、防災性の向上、スマートシティの推進

- 安全・安心な歩行者空間の確保、防災性の向上
 - ・市駅周辺の都市機能を支える重要な道路として④街区に新たな道路を整備し、府道枚方藤阪線と府道枚方茨木線のネットワークを強化することにより、②街区における市駅(南口)駅前広場の通過交通抑制や歩行者空間の確保、防災性の向上、④街区の土地利用などを促進
 - ・歩行者の回遊性を高めるため、公園・広場の機能拡充や新庁舎、複合施設などと併せて整備を行うペDESTリアンデッキや通路、緑地・広場などをネットワーク化し、さらに天野川や川原町方面などとの歩行者動線を接続・強化
 - ・②街区のまちづくりと連携し、市駅から④街区の施設などを經由して新庁舎までペDESTリアンデッキを整備することにより、大規模な水害時には避難通路として活用できるバリアフリー化された安全通路を確保
 - ・新庁舎整備と連携してフリンジパーキングとなる集約駐車場を整備し、市駅周辺中心エリアへの車両進入を抑制
 - ・ニッペパーク岡東中央や新庁舎の機能を拡充することにより、大規模災害時における防災機能を向上
- スマートシティの推進
 - ・今後の新技術やDXの進展を注視し、健康寿命の延伸や再生可能エネルギーの利用推進なども見据えた街区内のエネルギーの効率的な管理、新たな移動手法(パーソナルモビリティや自動運転バスなど)の推進など、スマートシティの実現をめざす

2-2. 行政機能の継続性の向上

- 土地区画整理事業における造成工事に伴う地盤の嵩上げや駐車場の効果的な配置などによる新庁舎の浸水対策を新庁舎前広場との接続に配慮しながら実施
- ⑤街区に安全・安心の拠点を形成するため、消防機能や災害対応機能などの導入を検討
また、本庁舎機能を長期的に継続して維持する観点から、新庁舎整備後のさらなる将来への備えとして、⑤街区の民間活力導入エリアの将来的な庁舎建替え用地としての活用を関係機関と検討

3. 将来リスクを踏まえた着実な事業の推進

3-1. 社会環境の変化への対応とまちづくり全体を踏まえた再整備

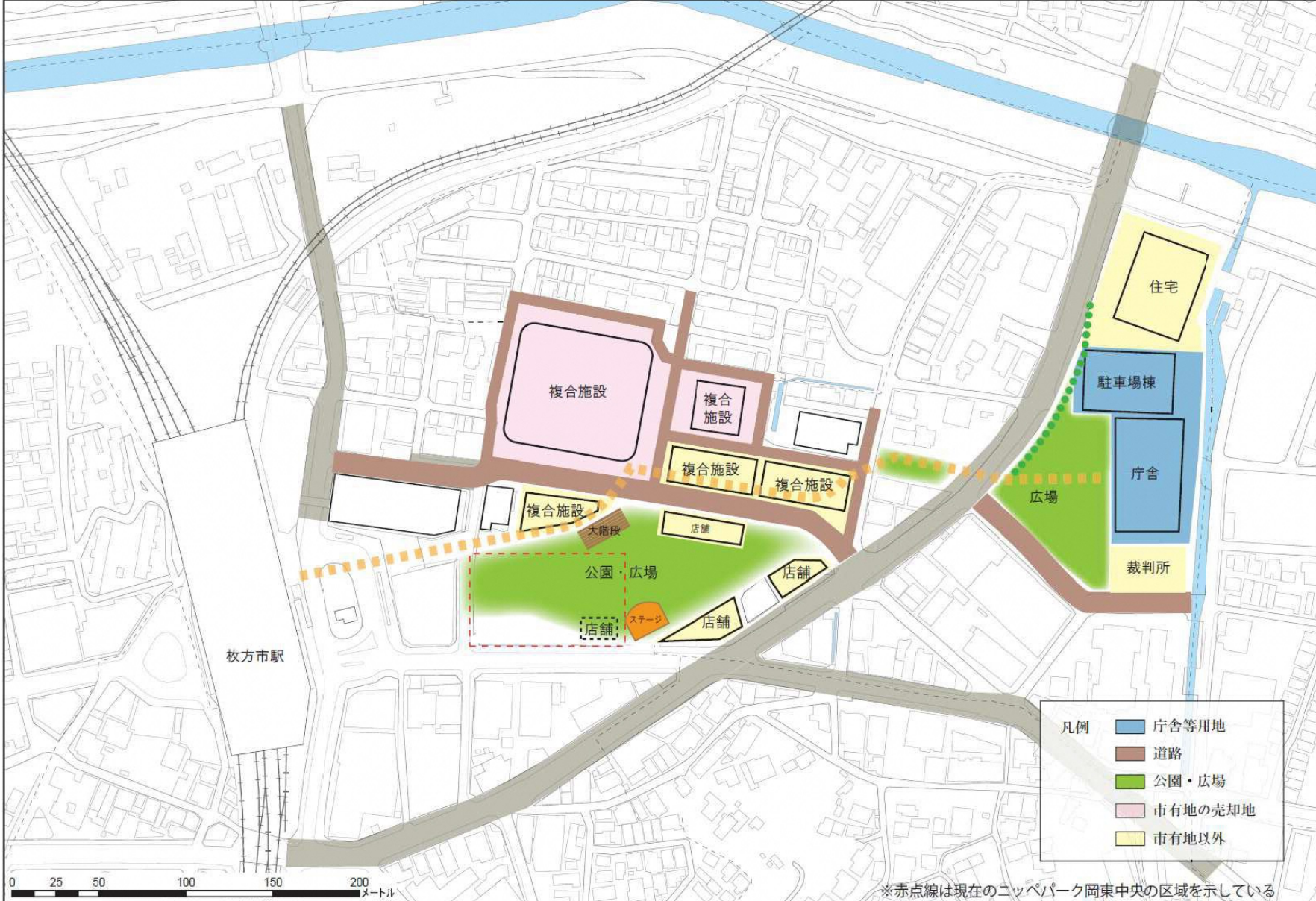
- まちづくりの計画検討段階から全工事完了まで長期間に渡るため、将来の物価上昇や市民ニーズの変化など社会環境の変化にも対応しながら、事業費や収支計画を精査し、その結果に基づく本市の長期財政見通しを踏まえ、権利者や関係機関と連携・協力して着実に④⑤街区の再整備を推進
- 民間活力導入エリアの市有地は、事業実現性の観点から売却を基本とする
- 地権者と協力・連携して土地区画整理事業によるまちづくりを推進
- 市駅から新庁舎まで「みどりの大空間」を確保し、賑わいと憩い・安らぎ空間としての機能を発揮できるよう、計画の検討段階から②街区と連携して、まちづくりに取り組む

3-2. トータルコーディネートや財政負担の軽減

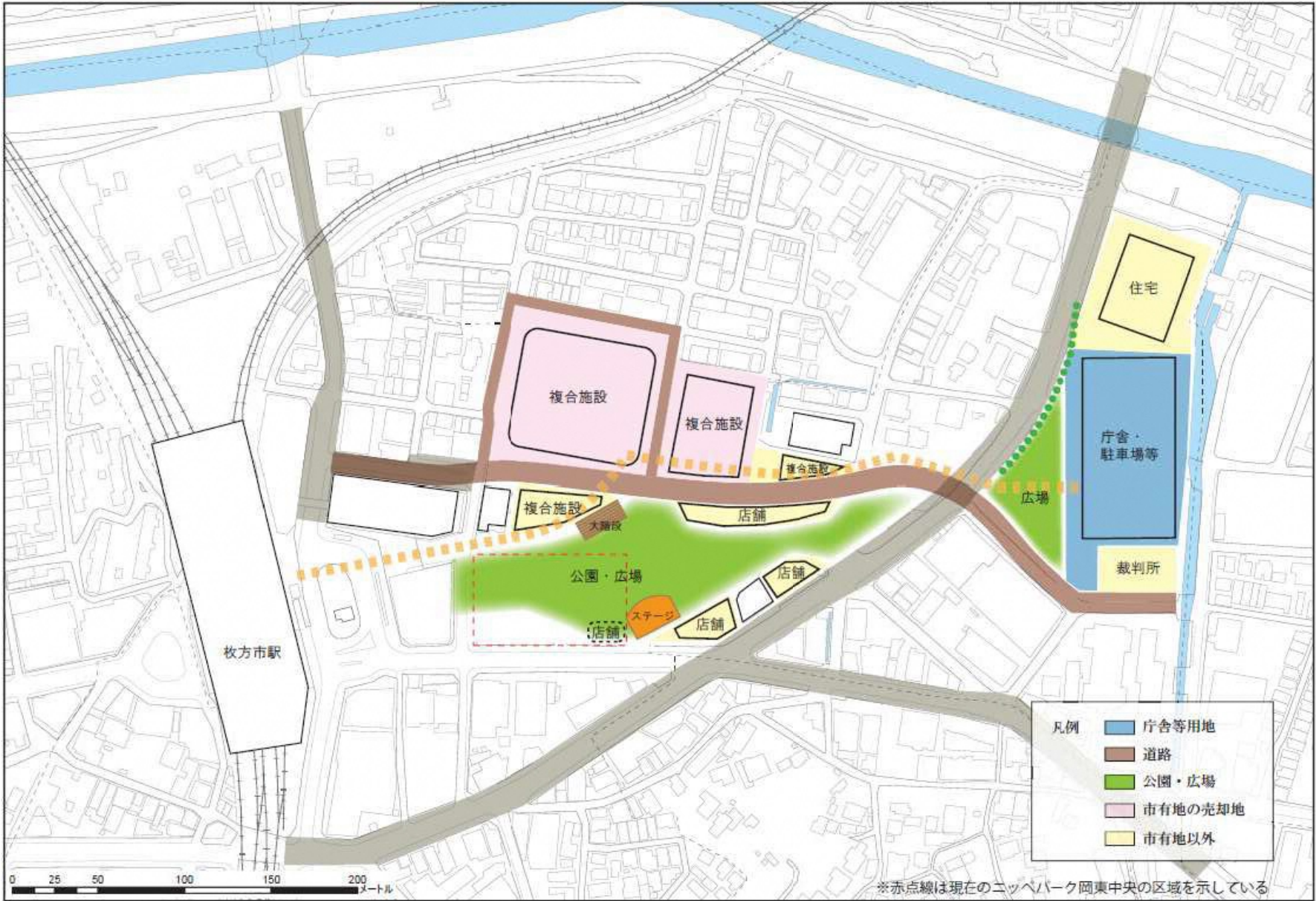
- 専門性が高く、長期間で段階的な事業であることなど、④⑤街区再整備の事業特性を踏まえ、UR都市機構に土地区画整理事業の施行者としての参画及びトータルコーディネートへの協力を求める
- また、民間活力導入エリアの土地活用事業者を選定し、土地区画整理事業と連携して一体的なまちづくりを推進
- 本市の財政負担軽減に向け、UR都市機構のまちづくり支援制度や人的ノウハウを活用して、着実に再整備を実施

④⑤街区の土地利用による比較（案）

《枚方市駅周辺再整備基本計画》



《今回更新案》



④⑤街区の土地利用による比較表(案)

アンダーバー：再整備基本計画時点との主な違い

項目	枚方市駅周辺再整備基本計画	今回更新案
前提・条件など	再整備基本計画時点の土地利用計画案 〈基盤整備の事業手法〉土地区画整理事業 〈その他〉物価上昇等の見込みを反映(令和4年8月時点)	再整備基本計画時点より、④街区の区域拡大 〈更新内容〉区域拡大、道路等の線形変更 〈基盤整備の事業手法〉土地区画整理事業 〈その他〉物価上昇等の見込みを反映(令和4年8月時点) ※区域拡大に伴う枚方市駅周辺再整備基本計画(以下「再整備基本計画」という。)の「1-2.対象区域」の一部変更が必要
土地利用図案		
総合評価	〈全体評価〉 ● 一定の効果がある土地利用計画案であるが、今回更新案と比較して、まちづくりの点で評価が低い	〈全体評価〉 ● 再整備基本計画時点と比較して区域拡大による市負担額の増加はあるが、 <u>再整備基本計画の実現に向け、総合的に効果が高い</u> 土地利用計画案であると評価する。 〈項目評価〉 ● <u>まち全体の賑わい創出や回遊性の向上、公園広場での市民活用、市民活動の機会の創出、みどりの景観軸</u> の形成等の項目で <u>より良い評価</u> 。 ● 市負担額は、区域拡大や物価上昇等を反映し、再整備基本計画ベースの <u>再整備基本計画時点より約9億円増加</u>

アンダーバー：再整備基本計画時点との主な違い

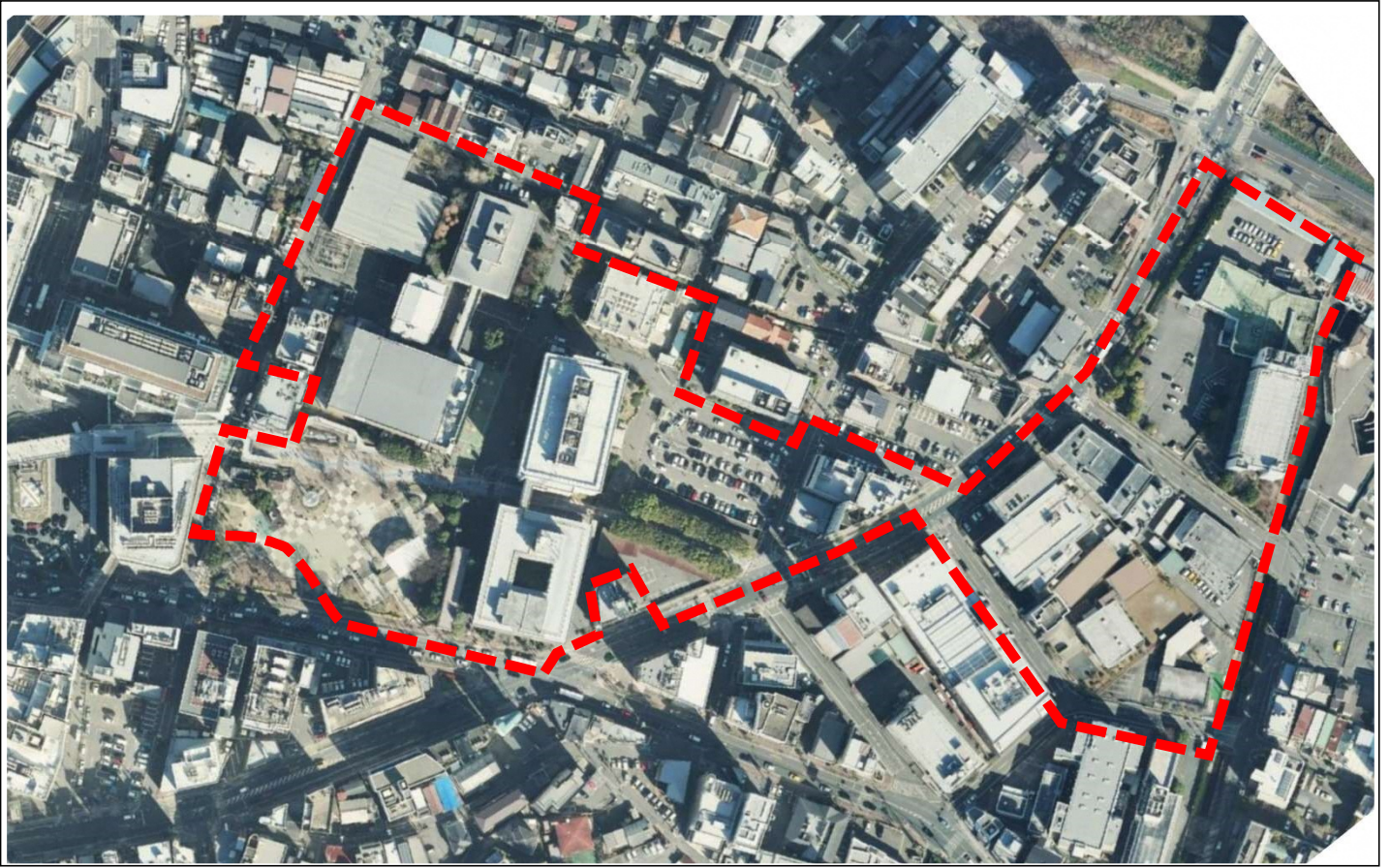
項目		枚方市駅周辺再整備基本計画				今回更新案				
市有地	従前	約 30,000m ²				約 30,000m ²				
	従後	約 30,000m ²				約 32,000m ²				
	市有地の売却地	約 9,000m ²				約 10,000m ²				
	売却後の市有地	約 21,000m ²				約 22,000m ²				
	従後のみどりの面積	約 10,000m ²				約 11,000m ²				
概算事業費比較	項目	事業費（支出）		財源（収入）		事業費（支出）		財源（収入）		
	新庁舎整備	工事費等	119 億円	市費	119 億円	工事費等	119 億円	市費	119 億円	
	土地区画整理事業など	工事費等	178 億円	国費	56 億円	工事費等	199 億円	国費	65 億円	
				市費	117 億円			市費	129 億円	
				保留地処分金	5 億円			保留地処分金	5 億円	
全体事業費	297 億円		297 億円		318 億円		318 億円			
市有財産の有効活用 ※サウンディング型市場調査で ④街区の民間活力導入エリアの 土地単価の可能性の範囲を反映		91～95 億円				94～99 億円				
市有財産有効活用後の市負担額		141～145 億円 (参考) 枚方市駅周辺再整備基本計画時点(令和 3 年 3 月) 概算事業費：約 247 億円 市負担額：約 198 億円 市有財産の有効活用：約 87 億円 市有財産有効活用後の市負担額：約 111 億円				149～154 億円				
まちづくり	賑わい・回遊性	まち全体の賑わいや回遊性	<ul style="list-style-type: none"> ④街区全体での民間活力導入や⑤街区を含めたまちづくりとなり、広範囲の賑わい創出や回遊性の向上、⑤街区から南側地域の土地利用の促進が可能 まち全体でゆとり空間が創出でき、回遊性の仕掛けが可能となる 				<ul style="list-style-type: none"> 区域を拡大することで、さらなる④⑤街区の繋がりやゆとり空間の創出が可能となり、⑤街区から南側地域の土地利用の促進、及び宮之阪方面を含むまち全体の回遊性向上、賑わいの波及効果がより大きい 			
		公園広場の活用	<ul style="list-style-type: none"> ④街区の公園・広場において、一定のゾーニングや公園・広場に面した民間施設の立地により連携した活用が見込める 日常において、⑤街区の庁舎前広場も活用した賑わい創出も可能 				<ul style="list-style-type: none"> 公園・広場空間が広く確保できることで、より特色があるゾーニングや複数の民間施設の立地が可能となり、さらに連携した活用が見込める 日常において、⑤街区の庁舎前広場も活用した賑わい創出が可能 			
	市民生活	市民が活用できる施設	<ul style="list-style-type: none"> 生活利便施設などの市民が利用しやすい複数の民間施設の立地が可能 							

アンダーバー：再整備基本計画時点との主な違い

項目		枚方市駅周辺再整備基本計画	今回更新案
まちづくり	市民生活	新庁舎へのアクセシビリティ <ul style="list-style-type: none"> ● 枚方市駅から約 470m となり、現状より約 210m 遠くなる。 ● 宮之阪駅からは近くなる。 ● 路線バスの停留場が近く、路線バスでのアプローチがしやすい。 	
	文化芸術	市民活動の機会の創出 <ul style="list-style-type: none"> ● ④街区の公園・広場において、市民活動の機会の創出が可能 ● 日常において、⑤街区の庁舎前広場も活用した市民活動の機会の創出も可能 	<ul style="list-style-type: none"> ● ④街区の公園・広場空間が広く確保できることで、さらに多様な市民活動の機会の創出が可能 ● 日常において、⑤街区の庁舎前広場も活用した市民活動の機会の創出が可能
	交通基盤	交通動線の円滑性 <ul style="list-style-type: none"> ● ⑤街区の駐車場を、集約駐車場やフリッジ駐車場として運用することで、中心部への車両進入抑制に寄与でき、④街区の駐車機能の一部を補完も可能 ● 複数路線の交差点処理について、関係機関との協議・調整が必要 ● 車両動線がスムーズ 	<ul style="list-style-type: none"> ● ⑤街区の駐車場を、集約駐車場やフリッジ駐車場として運用することで、中心部への車両進入抑制に寄与でき、④街区の駐車機能の一部を補完も可能 ● 新たな交差点処理について、関係機関との協議・調整が必要
	みどり・環境・景観	公園・広場等の空間確保 <ul style="list-style-type: none"> ● ④街区で現状より大きな公園・広場の確保が可能 ● ⑤街区にも広場の確保が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ● ④街区でさらに大きな公園・広場の確保が可能 ● ⑤街区にも広場の確保が可能
	環境・景観	みどりの景観軸の形成 <ul style="list-style-type: none"> ● 市駅から⑤街区に向けて、一定のみどりの景観軸の形成が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ● ④街区の区域拡大により、市駅から⑤街区に向けて、より連続的なみどりの景観軸の形成が可能
	防災・減災	新庁舎位置の安全性 <ul style="list-style-type: none"> ● 造成による地盤のかさ上げ等、洪水や内水の想定浸水への一定の対策が可能 	
	安全・安心の拠点形成 <ul style="list-style-type: none"> ● 広域緊急交通路である府道枚方茨木線に面しており、市内の災害応急に対して、災害本部として迅速な対応が可能 		
	災害時の活用空間・施設の確保 <ul style="list-style-type: none"> ● ④街区での公園・広場において、災害時に活用できる空間の確保が可能 ● ⑤街区の庁舎前広場において、災害時に活用できる広場の確保が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ● ④街区の公園・広場空間が広く確保できることで、災害時に活用できる空間をさらに確保が可能 (2) ⑤街区の庁舎前広場において、災害時に活用できる広場の確保が可能 	
スケジュール	新庁舎の早期実現 <ul style="list-style-type: none"> ● 府民センターや分館跡地を活用することにより、最短で令和 13 年の庁舎完成が可能(プレ令和 11 年) 		

■④⑤街区 現状と再整備後のイメージ

現状



再整備後の土地利用イメージ図(更新案)



〈③、④⑤街区の再整備による経済波及効果〉 (関西大学 宮本名誉教授による試算)

		大阪府		枚方市	
		経済効果	雇用創出	経済効果	雇用創出
1 年間	建築・投資	1,780億1,500万円	13,412人	1,130億1,300万円	8,689人
	消費支出	453億 700万円	4,241人	303億6,300万円	2,989人
	総効果	2,233億2,200万円	17,653人	1,433億7,600万円	11,678人
10 年間	総効果	6,310億8,500万円	55,822人	4,166億4,300万円	38,579人

※サウンディング型市場調査の結果を踏まえ、コンテンツとして、飲食店、小売店、クリニック、デジタルシアター、アリーナ、能楽堂、インキュベーション施設などを想定

〈経済波及効果とは〉

ある産業で新たな需要が発生すれば、その産業は生産に当たって原材料や部品、サービス等を購入するため、その影響は他産業にも波及する。また、その一部は消費にまわり、消費が増えればその消費増に対応するため更なる生産が発生すると考えられる。

このような一部の需要の増加が連鎖的に様々な産業を誘発し、経済的な効果が発生することを経済波及効果という。